

# 春告草

第115号 平成30年8月28日 進路指導部発行

## 勉学の秋に向けて 模試を受ける意味とその活用法

平成最後の暑い夏が終わった。「西日本豪雨」、「40℃を超える気温」など異常ともいえる気象が続いたが、大学入試関係で異常だったのは東京医科大学における「不正」。文部科学省前局長の息子が同大学受験の際、便宜を図ったことを発端に、女子受験生や三浪以上の受験生が不利になる「得点操作」が明るみにになった。一生懸命に努力したのに、女性医師は辞めるからとか、多浪生は力が伸びないからということで、減点されてはかなわない。特殊な事例だろうが、やがては母校となる大学選びだ。しっかり調べて、進学先を選ぼう。

さて、皆さんはと言えば夏休みにも関わらず、登校して勉強に取り組む姿が目立った。6年生にとって貴重な夏休みだったが、有意義に過ごせただろうか。2学期が始まり「勉学の秋」を迎えるが、夏休み中の勉強の成果が出て「実りの秋」が迎えられることを祈っています。4年生、5年生にとっても2学期は進路選択の意味では重要な時期である。鷹校祭の中核として活躍しなければいけないが、その一方でやるべきことをきちんとこなして、自分の思い描く進路目標へと一步一步近づいていけるような努力を継続しなければいけない。

前置きが長くなったが、6年生は9月から12月のセンタープレテストまで、毎月模試を受験することになる。模試をどのような位置づけで捉えているのかによって、得られる効果は大きく違ってくるだろう。模試を受ける意味とその活用法について述べるので、参考にしてもらいたい。もちろん4年生、5年生にとっても大切な内容である。7月模試の結果票も近いうちに返却されるので、記事を参考にして、これからの学力アップに活かしてもらいたい。

まず大事なことは、自分の能力や適性を分析し、自己修正をするトレーニングとして模試を捉えるということだ。自分はこの分野に向いている、向いていないということは漠然と感覚的には分かる。ただし、それを自分自身で客観評価するのは意外と難しいものだ。その点、模試を受けることで、様々な指摘を得られるのだから、これを受験計画に使わない手はない。模試は能力や適性を分析し、修正点を見出す材料を与えてくれる。材料をどのように学力向上につなげていくか、そこに受験生としての力量が求められるとあってよいだろう。届いた結果を見て判定に一喜一憂し、偏差値を確認して終わりにしてはいけない。「模試＝力試し」の認識は改めよう。結果票には、どの教科・科目のどの分野を伸ばせば目標に到達できるのかの手がかりがあるのだから。

ただし、結果票に記載された指摘すべてを受験計画に反映させればいいのかといえば、決してそうではない。結果票には現状で足りている部分、足りていない部分について書かれている。しかしその指摘は採点者視線であって、やるべきことの優先順位は受験生本人が考えなければいけない。「模試を活用する」ということは、書かれたことを闇雲に消化することではない。例えば模試で点数の悪い科目というのは、理解できていないことからくるスピード不足による部分が大きいだろう。ただでさえスピード不足のところと言われた通りのことをやっても、たいていは本番までの時間がなくなって、あわてることになる。もちろん努力課題を修得すれば成績向上へつなげることは可能だろう。ただし、それがいつになるかは分からない。だからこそ、志望校とのギャップを把握し、自分の能力・適性に応じた得点の積み上げ方を考えることが重要なのだ。

模試を受けたらその日のうちに答え合わせをし、できなかったところを確実に身に着けることも大切だ。模試を受けた直後の復習は苦手部分の補修には大変効果的である。

6年生は以上のことに加え、模試を本番の予行演習として捉え、時間配分の感覚を磨き、効率的に解き進める順番を探るといったシミュレーションをすることだ。校内で実施する模試の他、大学別模試には積極的にチャレンジしよう。その大学の出題傾向や出題形式を取り入れているので、シミュレーションには最適である。

センター試験 144 日前

# センター試験願書受付がいよいよ始まる！

現役受験生は在籍校経由で一括出願

今度のセンター試験は来年の1月19日、20日に行われる。本試験実施日は今年に比べて約1週間遅い。受験生心理としては嬉しいだろうが、逆にセンターから私大試験、国公立大個別試験までの時間は少ない。先を見据えた学習計画が必要になる。半年後までにどこまで力を高めるのか、そのためには1か月後までに何をやるのか、そして今週は何を済ませるのかといった具合に、計画を細分化していくことが求められる。しっかりと準備していこう。

さて、センター試験受験へ向けての手続きがいよいよ始まる。出願期間、試験日は右表の通りとなっているが、現役生（高等学校または中等教育学校卒業見込者）は在学する学校経由で書類を取りまとめて、学校が一括して出願する。

試験日・試験時間割は既に発表されている通りで、1日目に地歴・公民、国語、外国語の文系科目、2日目には理科①、数学①、数学②、理科②の理数科目の試験が行われる。（右表参照）

受験教科及び科目数については事前登録となっていて、各教科について受験の有無の他、地理歴史、公民については受験科目数を、理科については理科①を受験するのか理科②を受験するのかなどについて、志願票に記入することになっている。

志願票提出後は、登録された志願票の記入事項（氏名、住所や受験科目など）につ

いての確認はがきは10月下旬までには、入試センターより送付される。受験票は12月中旬に送付されてくるが、現役生はすべて在籍校経由で行われる。センター試験受験会場は受験票に記載されている。

6年生への受験案内配付と説明会は5日を予定!

## センター試験実施日程

検定料等払込み	平成30年9月3日(月)～10月12日(金)
志願票校内締切り	平成30年9月25日(火) (下書きの提出は9月18日まで)
出願期間	平成30年10月1日(月)～10月12日(金) (10月2日一括出願の予定)

### 確認はがき（出願受理通知）の受領

平成30年10月29日(月)までに到着

### 受験票等の受領

平成30年12月17日(月)までに到着

### 試験期日

平成31年1月19日(土)・20日(日)

## センター試験時間割

期日	出題教科・科目	試験時間	
平成31年 1月19日(土)	地理歴史 公民	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	2科目受験 9:30～11:40 1科目受験 10:40～11:40
	国語	「国語」	13:00～14:20
	外国語	「英語」他	【筆記】 15:10～16:30 【リスニング】 17:10～18:10
1月20日(日)	理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30～10:30
	数学①	「数学I」「数学I・数学A」	11:20～12:20
	数学②	「数学II」「数学II・数学B」	13:40～14:40
	理科②	「物理」「化学」「生物」「地学」	2科目受験 15:30～17:40 1科目受験 16:40～17:40

## センター試験受験科目の登録

教科	記入方法
国語	・受験する → 「A」と記入 ・受験しない → 「×」と記入
数学	※ 数学を「受験する」「A」として登録した場合は、「数学①」と「数学②」の両方が登録されますが、「数学①」のみ又は「数学②」のみの受験も可能です。
外国語	・1科目受験する → 「A」と記入 ・2科目受験する → 「B」と記入 ・受験しない → 「×」と記入
地理歴史 公民	・理科①を受験する → 「A」と記入 ・理科②を1科目受験する → 「B」と記入 ・理科①を受験、理科②を1科目受験する → 「C」と記入 ・理科②を2科目受験する → 「D」と記入 ・受験しない → 「×」と記入
理科	→ 「A」と記入 → 「B」と記入 → 「C」と記入 → 「D」と記入 → 「×」と記入

志願票第1面には、氏名、住所など、第2面には受験科目等を記入し、検定料受付証明を貼る。

平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験 志願票 第1面

出願期間：平成30年10月1日(月)～10月12日(金) (10月12日消印有効)

① 高等学校コード  
② 出身中学校  
③ 希望する学校記入欄  
④ 希望する科目  
⑤ 希望する科目数

⑥ 希望する科目数

⑦ 希望する科目数

⑧ 希望する科目数

⑨ 希望する科目数

⑩ 希望する科目数

⑪ 希望する科目数

⑫ 希望する科目数

⑬ 希望する科目数

⑭ 希望する科目数

⑮ 希望する科目数

⑯ 希望する科目数

⑰ 希望する科目数

⑱ 希望する科目数

⑲ 希望する科目数

⑳ 希望する科目数

㉑ 希望する科目数

㉒ 希望する科目数

㉓ 希望する科目数

㉔ 希望する科目数

㉕ 希望する科目数

㉖ 希望する科目数

㉗ 希望する科目数

㉘ 希望する科目数

㉙ 希望する科目数

㉚ 希望する科目数

㉛ 希望する科目数

㉜ 希望する科目数

㉝ 希望する科目数

㉞ 希望する科目数

㉟ 希望する科目数

㊱ 希望する科目数

㊲ 希望する科目数

㊳ 希望する科目数

㊴ 希望する科目数

㊵ 希望する科目数

㊶ 希望する科目数

㊷ 希望する科目数

㊸ 希望する科目数

㊹ 希望する科目数

㊺ 希望する科目数

㊻ 希望する科目数

㊼ 希望する科目数

㊽ 希望する科目数

㊾ 希望する科目数

㊿ 希望する科目数

平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験 志願票 第2面

① 希望する科目数

② 希望する科目数

③ 希望する科目数

④ 希望する科目数

⑤ 希望する科目数

⑥ 希望する科目数

⑦ 希望する科目数

⑧ 希望する科目数

⑨ 希望する科目数

⑩ 希望する科目数

⑪ 希望する科目数

⑫ 希望する科目数

⑬ 希望する科目数

⑭ 希望する科目数

⑮ 希望する科目数

⑯ 希望する科目数

⑰ 希望する科目数

⑱ 希望する科目数

⑲ 希望する科目数

⑳ 希望する科目数

㉑ 希望する科目数

㉒ 希望する科目数

㉓ 希望する科目数

㉔ 希望する科目数

㉕ 希望する科目数

㉖ 希望する科目数

㉗ 希望する科目数

㉘ 希望する科目数

㉙ 希望する科目数

㉚ 希望する科目数

㉛ 希望する科目数

㉜ 希望する科目数

㉝ 希望する科目数

㉞ 希望する科目数

㉟ 希望する科目数

㊱ 希望する科目数

㊲ 希望する科目数

㊳ 希望する科目数

㊴ 希望する科目数

㊵ 希望する科目数

㊶ 希望する科目数

㊷ 希望する科目数

㊸ 希望する科目数

㊹ 希望する科目数

㊺ 希望する科目数

㊻ 希望する科目数

㊼ 希望する科目数

㊽ 希望する科目数

㊾ 希望する科目数

㊿ 希望する科目数

平成31年度大学入学者選抜

## 大学入試センター試験 受験案内 31

出願期間 平成30年10月1日(月)～10月12日(金) (消印有効)

試験期日 平成31年1月19日(土)・20日(日)

※ 受験料は各大学への出願の際に別途送付するほか、(出願期間)中では受付せず、試験開始前日(平成30年9月1日(土)～9月2日(日))まで受付いたします。

◎「受験案内」は、大学入試センターのホームページで公開しております。

電通大のルーツは1918年に創設された「無線電信講習所」。設立にはタイタニック号の遭難がきっかけで海上船舶通信にモールス信号の重要性が認識され、無線通信士の育成が求められた背景があった。今は、衛星を利用したデジタル通信が普及し、1999年にGMDSS（Global Maritime Distress and Safety System, 世界海洋遭難安全システム）が導入され、アナログ通信はその任を終えたが、正門脇には「無線通信士発祥教育之府」の記念碑がある。長い間、船舶通信にあたられた船舶通信士の労働組合が解散した時に、多額の寄付金と共に電通大へ寄贈された記念碑である。講習所創設より丁度100年、電気通信の名称は1949年の大学設立以来変わっていないが、今や理工系総合大学として発展を続けている。

**1 学部・学科・キャンパス** 2年前に学部再編があり、情報理工学部が情報理工学域と名称を変更し、それまでの4学科体制がⅠ～Ⅲ類に改められた。前期入試は「学域一括入試」で1年次の前学期終了時に、所属する類が決定される。後期入試は「類別入試」で行われる。類はⅠ類（情報系）、Ⅱ類（融合系）、Ⅲ類（理工系）に分かれ、さらに細かく14の「教育プログラム」が用意されている。キャンパスは調布キャンパスの1か所のみ。京王線調布駅より徒歩5分のところにある。

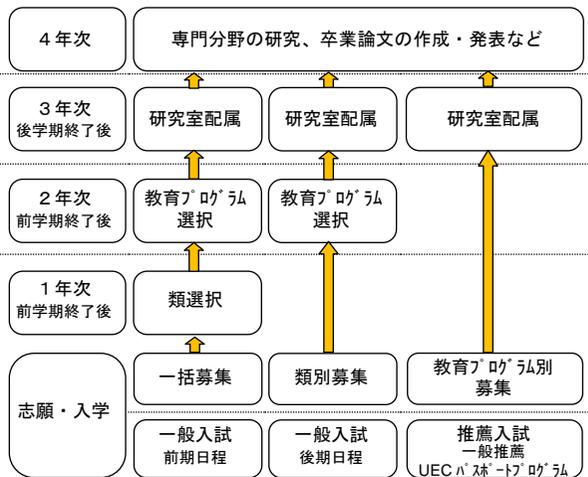
**2 教育** 学部・学科体制から、学域・系体制への改組の大きな理由は学士課程から修士課程までの一貫性のある教育環境の整備にあった。教育プログラムは、学士2年次後学期から博士前期課程修了までの間で専門分野を体系的に学び、研究室では同じ教員の一貫した指導を受け、専門分野における即戦力となれる力を身につけることができる。

「UECグローバルリーダー育成プログラム」は、1・2年次の学業成績により選ばれる教育プログラム。通常よりも半年早く研究室に配属され、4年次秋までに卒業研究を完成させる。その後半年間、国内外の研究機関や海外の大学などで、学外研修を行う。

「楽力教育」はものづくりの知識・技術・環境の提供という、工学系大学ならではの大きな特徴。電子工学工房は、電子回路の製作を通じてエレクトロニクスの基礎力を養成するところ。自分たちで設計・製作した電子回路は、「UECものづくりコンテスト」に出品し、新規性、有用性、娯楽性を競うことができる。情報工学工房は、プログラミングを通して技術を学び、ソフトウェアとしての「ものづくり」の面白さを体験できる施設である。さらに、ピクトラボは365日24時間オープンの工房で、正式名称は「高度ICT試作実験公開工房」。3Dプリンターやレーザーカッターなどの機械でアイデアをカタチにした試作とその公開を行っている。サークル的活動をする工房としては「ロボメカ工房」があり、各種ロボコンなどで、その活動が評価されている。

「UECパスポートプログラム」はⅢ類電子工学、光工学、物理工学、化学生命工学の各プログラムの学生が対象。自ら学ぶ高い意欲を持つ学生を支援する特別選抜プログラムで、一般入試合格者の中からは、2年次進級時に選抜する。「UECパスポートプログラム推薦入試」合格者と合わせて1学年20名程度という少数選抜の教育システムである。

## 電気通信大学の学修システム



Ⅰ類（情報系） 210名	メディア情報学プログラム 経営・社会情報学プログラム 情報数理工学プログラム コンピュータサイエンスプログラム
Ⅱ類（融合系） 245名	セキュリティ情報学プログラム 情報通信工学プログラム 電子情報学プログラム 計測・制御システムプログラム 先端ロボティクスプログラム
Ⅲ類（理工系） 235名	機械システムプログラム 電子工学プログラム 光工学プログラム 物理工学プログラム 化学生命工学プログラム
先端工学基礎課程 （夜間主課程）30名	社会人コース

**3 進路** 卒業生の60%以上が大学院へ進学し、東京大、東工大などをはじめ他大学への進学者も含まれている。就職者は約35%だが、就職率は96.5%で有名企業400社への実就職率は一橋大、東工大に次いで国立大3位の実績をあげている。女子学生の占有割合は約15%と低い、少ない女子学生へのキャリア支援は厚く、大学広報誌「UEC WOMAN」では、電通大OGが実際に現場でどのように働いているのかなどが対談形式で紹介されていて、男子学生にも参考になる編集になっている。大学院への進学率も約60%で男子学生に比べても差はない。オープンキャンパスでも女子生徒とその保護者を対象にした相談ブースも設けられていて、女子学生数の増加を大学側でも意識している様子がうかがえた。こつこつと真面目に学業に取り組む女子学生が増えれば、男子学生も優秀な学生が増えるということを以前、大学の先生からうかがったことがある。理工系分野における女性研究者、技術者、経営者は少ない。人材が少ない分、チャンスは男子学生よりも多いのかも知れない。理系を目指す女子生徒よ。機械、電子、情報系に女性が進出できる余地はたくさん残っていると心得よ。

**4 入試について** 一般入試は前期日程、後期日程それぞれ実施。前期日程は一括募集で行い、類への配属は1年次後学期に決定し、教育プログラムは2年次後学期に選択する。後期日程は類別募集で出願時にⅠ類からⅢ類までの何れかを選択する。今年度の入試結果は表の通りである。推薦入試はさらに細かく教育プログラム別に選抜が行われる。Ⅲ類電子工学・光工学・物理工学・化学生命工学の4プログラムについては「UECパスポートプログラム推薦入試」も行われている。

入試科目は前期日程、後期日程とも、センターが5教科7科目、個別試験は数学、理科2科目、英語の3教科受験となる。理科は物理、化学の2科目指定だが、配点は物理120点、化学80点で物理重視である。細かな配点は省略するが、前期・後期とも「優先合格者枠」があって、センター試験の成績に関係なく個別試験高得点者から、前期日程では370名中45名以内、後期日程では250名中30名以内を優先合格させる。また、前期日程の個別試験についてはA方式(数学重点)、B方式(理科重点)の何れかの方式を選択して出願する。

平成30年度入試における倍率、合格者平均点などの選抜状況は右表の通りである。優先合格には個別試験で75%以上を得点したい。総得点による合格者は優先合格者を除いた後の選抜となるので、得点の開きは狭く、得点率65%~75%の間に合格者が収まる結果となっている。**電通大オープンキャンパスを見て** 夏休みに入る直前の日曜日に高校教員向けの説明会があり、出席してきました。同日にはオープンキャンパスも開かれていて、説明会終了後、大学の中を案内していただいた。以前、卒業生から聞いた話ではⅠ類の人气が高いと聞いていて、実際後期試験でも、合格ラインが高いのが情報系となっているが、Ⅱ類、Ⅲ類にも面白そうな研究がたくさんありそうだ。見学させていただいた先端ロボティクス研究室では、癌や結石の位置を高精度に抽出、追従、モニタリングをしながらピンポイントに超音波を照射する診断・治療ロボット(装置)の実現を研究していて、院生3人のプレゼンを聞いた。医療現場でのデジタルデータの活用は臨床の現場でも進んでいるのだということが分かった。先端をいく研究であればあるほど、私達にとって未知の領域はある。進路研究の際、オープンキャンパス見学の重要性を改めて認識した。

平成30年度入学者選抜状況

区分・類・プログラム		募集人員	志願者数	合格者数	受験倍率	
一般入試 前期日程	学域一括募集	370	1587	388	3.9	
	Ⅰ類(情報系)	76	910	89	6.1	
一般入試 後期日程	Ⅱ類(融合系)	89	782	104	4.7	
	Ⅲ類(理工系)	85	756	115	4.0	
推薦入試	Ⅰ類	メディア情報学	6	36	9	4.0
		経営・社会情報学	5	11	4	2.8
		情報数理工学	5	9	3	3.0
		コンピュータサイエンス	5	19	5	3.8
	Ⅱ類	セキュリティ情報学	4	9	4	2.3
		情報通信工学	6	5	3	1.7
		電子情報学	5	13	8	1.6
		計測・制御システム	5	8	5	1.6
	Ⅲ類	先端ロボティクス	5	16	5	3.2
		機械システム	5	11	6	1.8
		電子工学	4	2	2	1.0
		光工学	4	4	4	1.0
		物理工学	4	7	7	1.0
UEC推薦	化学生命工学	4	4	2	2.0	
	Ⅲ類	電子工学	3	2	1	1.5
		光工学		0	0	
		物理工学		1	1	
化学生命工学		0		0		

個別学力検査高得点による優先的合格者の成績

学域(日程)	類	総得点	最高点	最低点	平均点
情報理工(前期日程)	45名以内	450	376.00	324.00	339.65
情報理工(後期日程)	30名以内	600	502.00	438.00	458.62

総得点による合格者の成績

学域(日程)	類	総得点	最高点	最低点	平均点
情報理工(前期日程)	(大括り入試)	900	682.05	585.75	615.55
情報理工(後期日程)	Ⅰ類(情報系)	900	680.15	602.45	632.53
	Ⅱ類(融合系)	900	667.50	590.45	615.11
	Ⅲ類(理工系)	900	691.45	585.50	614.35